



ロータリーは 分かちあいの心

2007～2008年度
国際ロータリーのテーマ
ウィルフリッドJ.ウィルキンソン

会長／関野政人 幹事／山本讓二

DISTRICT 2510 JAPAN

留萌ロータリークラブ 会報

2007▶2008 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

みんなロータリーが好きだから
出会いを創造し活性しよう

プログラム

- 本日
会員卓話「年男おおいに語る②」
越野俊興君・道重幸君・宮尾幸之助君
- 次週予定

No. 2312

第27回 1月30日



前
例
会

会員総数……………51名
出免会員……………3名
欠席会員……………11名
出席率……………77.08%

前
々
会

第24回 1月9日
欠席会員……………0名
メイクアップ……………0名
修正出席率……………100%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

📝 会長報告 ……………

○ 年明けの騒々しさも、やや落ち着きを取り戻しました。昨日支庁制度改革の説明会があり出席してまいりましたが、この支庁再編という難題が俄かにクローズアップされ、地域にとっては真に大事なことなのに、本当のところの判断材料の情報が無い。とりあえず反対では、先延ばし日本人の悪い癖と感じた会議でした。

2ヵ月後) 現在までの累計額は10,072,810円で、10回目の表彰です。会員皆様のご協力に感謝いたします。

- 2) 国際ロータリー第2510地区矢橋ガバナーエレクト事務所より、2008年～2009年クラブ役員キットが届きましたので、遠藤副幹事にお渡しいたします。
- 3) 先週の例会でお話した通り、下半期及び年間の請求書をお渡しいたします。早めのお入金をお願いします。

👤 幹事報告 ……………

- 1) ロータリー米山記念奨学会より、特別寄付金累計額が規定の表彰額になりましたとの報告がありました。米山功労クラブとして推奨され、感謝状が戴けるそうです。(感謝状は

👤 委員会報告 ……………

国際奉仕委員会 森(幹)委員長
論山ロータリークラブ創立40周年及び姉妹血縁35周年記念式典が平成20年3月22日に論山市に於いて開催されます。クラブ会員一同でお祝

いしたく、多くの会員の参加を希望致します。訪韓日程は3月21日旭川空港を出発、3月23日帰国となっています。費用は参加人数によって異なりますが、だいたい10名の参加で12万円位です。なお、詳しくは皆様にFAXにて後日お知らせいたします。よろしくお祈りいたします。

愛好会

PC愛好会 田中会員

今年度第1回のPC愛好会を2月6日午後7時よりカフェレストラン「ダンケ」にて開催いたします。会費は2000円。午後6時と6時30分の2回に分けてご自宅、会社にお迎えにあげります。今回はDVD、CDのラベル印刷についてです。多数御出席お待ちいたしております。

3分間情報

会員研修委員会 河部副委員長
クラブ活性化の探求

ロータリーは時代の流れとともに変わり、クラブ運営もそれに即応していかなければなりません。

そのためにはロータリー情報の収集と活用が必要不可欠ですが、この際、クラブの活性化について考えてみたいと思います。

クラブの活性化についてクラブの活性化を考える場合、次のように色々なことが考えられます。

- ・ロータリーを良く知ることがクラブを良くすることににつながる。
- ・ロータリーのことを熟知させると、ロータリーに熱意を起こさせることになり、次のような目標達成へ誘導する力となる。

会員増強および退会防止、地域社会の活性化、青少年関係奉仕の充実(青少年の育成、教育、交換)、ロータリー財団、米山奨学会への貢献

- ・「各会員の教育が十分に行われたならば、あたたかも昼の後に夜が続くように、ロータリーの実践が始まる」…ガイ・ガンディカー(ロータリー通解)

- ・ロータリー活性化の元は長にある会長のリーダーシップにあり、会長の考え方と勉強と腕次第であるという。

クラブ奉仕の充実とロータリー情報の重要性

- ・クラブ奉仕とは、ロータリー・クラブの会員一人一人が自分のクラブの管理・運営の一部を分担し、クラブの諸活動に積極的に参加して、クラブの向上発展に尽くすことです。
- ・クラブ運営の基本は、親睦と奉仕の調和と全員参加にあります。
- ・クラブ奉仕の目的は、無関心層を無くし、クラブが会員にとって「魅力」と「誇り」と「感謝」の対象になるように運営すれば、クラブは自然に発展するものであります。

クラブ奉仕はロータリーを身につける一つの方法です。

さらに、ロータリー情報はロータリーの理念である、いわゆるロータリー哲学を会員一人一人の心に刻む大切な手段であり、ロータリー情報委員はその役割を果たす大切な存在であることを忘れてはなりません。また、ロータリアン一人一人は早くロータリーの真髓を身につけるよう努力しなければなりません。

こうすることがクラブの活性化につながるのではないのでしょうか。

(『ロータリー探求』から)

ニコニコBOX

- ・写真いただきました 江端会員
- ・平間会員のご協力により年度別出席簿がホームページ(会員ページ)に掲載されました

会報委員会

前 回	712,000円
今 回	3,000円
累 計	715,000円

📖 プログラム……………

「年男大いに語る」

松川会員

私は、今年5月に還暦となります。この年男大いに語るの場に立つのは、今回が2回目となります。何をお話しようかと考えてみましても他にお話し出きる事がないので、今日は私の趣味でもある山登りについてお話をさせていただきます。

私が最初に山に登りましたのは、今から約40年前、大学2年の夏に友人達と4人で当時流行していたカニ族として北海道一周旅行をした時に、利尻島に行った時の事でした。夕食後テントの中で寝ていると、ゾロゾロと明かりを持った人たちが歩いて行くものですから、何処へ行くのか聞いてみると、利尻山に登るというので急遽私たちも登るか、という事になったわけです。その旅行中、靴はキャラバンシューズを履いていましたので問題はなかったのですが、山登りを簡単に考えていましたので、食料も水も一切持たず、ランタン一つで山登りを始めてしまいました。利尻山は海拔1721mの山ですが、当時はフェリーを降りた所から歩きましたので標高差も1721mになります。当時もその登山道沿いには、途中水場もありませんでした。いくら若かったからとはいえ、登山口から3時間くらい登った8合目あたりから、腹は減るし、ノドはカラカラです。頂上ではみんなが美味しそうに食事を取っています。ですが私たちは何も持って来ませんでしたので、よほど物欲しそうに見えたのか、一人の同年代の女性が私達に1個のおにぎりをくれたのを、4等分して食べた美味しさは、今でもその友人に会った時の語り草です。そんな無茶な山登りが私の初めての山登りでした。

本格的に登り始めたのは、40歳を過ぎた頃からで、技術的にも、体力的にも初心者に毛の生えた程度です。女房の顔を伺いながら、ほとんどが北海道の山で、年10回くらい登っています。昨年までで、106回の山の頂上を極めることが出来ました。年に1～2度は春の山にも



登っています。4月後半からゴールデンウィークの頃です。勿論一面は雪野原ですが、雪が締まっていて登山靴のまま、これをツボ足と言うのですが、あまり埋まる事が無く歩く事が出来ます。ですから、夏に道が無く登れない山も登ることか出来ます。留萌近隣の山で言いますと、暑寒別岳やその隣の浜益岳や雄冬岳なんかは大変人気があり、札幌の方からも沢山登りに来ています。

天気の良い日なんかは、白い雪面の山に青空というコントラストの素晴らしさを味わう事ができ、実に気持ちの良いものです。このところ中国からの黄砂により雪面が茶色に薄汚れている事が多くなってきているのは、大変気がかりになるところです。

夏山の登り方として、一つの山を往復する往復登山と、もう一つに縦走というものがあります。表大雪や十勝連峰のように、幾つも連なっている山々とそれらを繋いでいる尾根を辿り、山から山へ尾根から尾根へ、歩いていくものですが、1回の山登りで、いくつもの山頂に立つ事ができますので、その山域を深く味わう事が出来ます。日帰り出来るものから、1週間以上かける本格的なものまで、パーティーの人数と時間と体力に応じて、いくつもの計画を立てることが出来ます。また、山中での宿泊は避難小屋かテントになります。私がやった一番長い縦走は白金温泉から十勝連峰に登り、大雪連峰のトムラウシ山を通して天人峡に下りた縦走です。山中2泊で距離にして約45キロでした。

いま、テントなどは本当に軽く小さくなってきていますし、食料なども出来るだけコンパクト

第26回 1月23日(水) 天候/晴

トにして皆で分担して持ちます。それでも荷物はざっと15~16キロ背負うことになります。水はテント泊指定地にある雪渓から流れている水を沸かして使いますので、あまり困らないのですが、一番重いのがアルコールです。重さを軽くするのはアルコール度数が高いものを選べば良いのですが、やはり10時間近くの行動でノドがカラカラですと、やっぱりビールが飲みたいもので、やはりぬるくてもビールは絶対欠かせない必需品だと思います。

この縦走中に私はブロッケン現象を見る事が出来ました。この現象は、朝早くに太陽を背にして立った時、自分の影が前方の雲や霧に大きく映り、その周囲に色のついた光の輪が見える現象です。昔の人はこれを見て、阿弥陀如来が姿を現したと考えたそうです。その意味がわかるほど荘厳なものでした。

この大雪連峰の旭岳・トムラウシ山と十勝連峰の十勝岳は「日本百名山」として大変人気があり、全国から百名山ツアーが生まれ、大勢の中老年登山愛好家に侵略され、頂上で座る場所が無いこともあるくらいです。この様に、いま山は「日本百名山ブーム」といわれています。この日本百名山は山を愛した作家・深田久弥が40年ほど前に書いた著書「日本百名山」の中で選定したものです。その後、マスコミや色々な団体が二百名山、三百名山と選んで発表しておりますが、これもそれぞれそれぞれの主観で選定していますので、なぜ内の山が入らないのと色々と異論も出ているようです。お手元に北海道の山に関する資料がありますが、皆さんが山に登る際には参考にして下さい。

昨年約40年ぶりに利尻山に行ってきました。勿論、今回は十分な装備で食料・水は十二分に持ったの山行です。その道中、フェリーの中で会った年配の方との話の中で、印象に残った言葉があります。「登山は幾つになっても出来るスポーツ。若い時は勢いで登れば良いし、歳をとったらその人のスピードで登れば良い。そして歩けなくなったら、山の麓から山を眺め、過去に登ったルートを思い浮かべ楽しむ事が出来る。こんな良い趣味はない。」私も山登りを「生

涯の趣味」として付き合っていきたいと思いません。

高田会員

今年はねずみ年、私は昭和23年2月7日ねずみ年生まれ。ネズミと言えばミッキーマウスを思い出す。女の子はネズミは嫌いなくせにミッキーマウスは好きなんだねとネットで見た。

ところで、私の職業は20年前までは製図台と鉛筆が道具、今はパソコンが道具である。私がパソコンの操作で毎日触っているのがマウス、いわゆるネズミである。よってネズミ年生まれの私は、パソコンとは縁が深い。

さて話題を変え、1月9日のロータリー新年会は大いに盛り上がった。この盛り上がりは会長、幹事、親睦委員長、奥会員の女性の手配などによるものが大きい。親睦委員会が気を使っただけか、私のそばにも女性を配置していただいたのにも感謝したい。

私の職業に関する話題としては、今年の6月20日の建築基準法の改正により建築着工の件数が大幅に落ち込んでいるのは新聞テレビ報道の通りです。このように1つの法律が改正された事によって国内の経済に大きな不景気をもたらしてしまった。建築に限らず、どの職業も先の見えない不景気で、苦難の連日だと思います。この様に落ち込んで暗い雰囲気の中で、親睦委員会が企画した新年会は、一時でも不景気を忘れさせて頂き、気を許した仲間の会話は大いに盛り上がったと思います。

さて今年私が意識することとして、大変感銘を覚えた稲盛和夫さんの「生き方」より抜粋して読まさせていただきます。

つねに前向きで建設的であること。感謝の心を持ち、みんなと一緒に歩もうという強調性を有している事。明るく肯定的であること。善意に満ち、思いやりがあり、優しい心を持っていること。努力を惜しまないこと。足るを知り、利己的でなく、強欲ではないことなどです。

いずれも言葉にしてみればありきたりで、小学校の教室に掲げられている標語のような倫理

観や道徳律ですが、それだけにこれらのことを
けっして軽視せず頭で理解するだけでなく、体
の奥まで染み込ませ、血肉化しなくてはいけな
いと思うのです。

「心に描いたものが実現するという宇宙の法
則」

このように良い心がけを忘れず、もてる能力
を発揮し、つねに情熱を傾けていく。それが人
生に大きな果実をもたらす秘訣であり、人生を
成功に導く王道なのです。なぜなら、それは宇
宙の法則に沿った生き方であるからです。

仏教には「思念が業をつくる」という教えが
あります。業とはカルマともいい、現象を生み
出す原因となるものです。つまり思ったことが
原因となり、その結果が現実となって現れてく
る。だから考える内容が大切で、その思念に悪
いものを混ぜてはいけない、と説いているので
す。積極思考を説いた哲学者である中村天風さ
んも、同様の理念から「けっして悪い思念を描
いてはいけない」といっています。

人生は心に描いた通りになる、強く思ったこ
とが現象となって現れてくる。まずはこの宇宙
の法則をしっかりと心に刻みつけてほしいので
す。人によっては、この様な話をオカルトの類
と断じて受け入れないかもしれませんが、しかし
これは、私がこれまでの人生で数々の確信する
に至った絶対法則なのです。すなわち、良い思
いを描く人には良い人生が開けてくる。悪い思
いを持っていれば人生はうまくいなくなる。
そのような法則がこの宇宙には働いているので
す。思ったことがすぐ結果に出てくるわけでは
ないので、わかりづらいかもしれませんが、20
年30年といったスパンで見えていくと、大抵の
人の人生は、その人自身は思い描いた通りにな
っているものです。ですからまずは純粹できれ
いな心を持つ事が、人間としての生き方を考える
上で大前提となります。なぜならよい心、特に
「世のため、人のため」という思いは、宇宙が
本来持っている「意思」であると考えられるか
らです。宇宙には、すべてを良くしていこう、
進化発展させていこうという力の流れが存在し
ています。それは宇宙の意思といってもよいも



のです。この宇宙の意思が生み出す流れにうま
く乗れば、人生に成功と繁栄をもたらすこと
ができる。この流れからはずれてしまうと没落
と衰退が待っているのです。ですから、すべて
に対して「よかれかし」という利他の心、愛の
心を持ち、努力を重ねていけば、宇宙の流れに
乗って素晴らしい人生を送る事が出来る。それ
に対して、人を恨んだり、憎んだり、自分だけ
が得をしようといった私利私欲の心を持つと、
人生はどんどん悪くなっていくのです。

宇宙を貫く意志は愛と誠と調和に満ちており
すべてのものに平等に働き、宇宙全体を良い方
向に導き、成長発展させようとしている。この
ことは、宇宙物理学で言う「ビッグバン・セオ
リー」から考えても十分納得、説明できるもの
です。簡単に説明しますと、宇宙には最初の一
握りの素粒子しか存在しませんでした。その素
粒子がビッグバンと呼ばれる大爆発によって結
合し、原子核を構成する陽子、中性子、中間子
を作り上げ、電子と結びつき、最初の原子であ
る水素原子を生み出した。さらにさまざまな原
子、そして分子が生まれ、やがて高分子が出来
上がり、人類のような高等生物までが生み出さ
れた。そういう宇宙の進化のありようを知れば
知るほど、すべてを成長させ、新化させてい
こうという何か「偉大なもの」の意思が存在し
ているとしか思えません。

私は長く物作りに関わってきて、それに導か
れるようにして、さまざまな新製品の開発に成
功し、人生を歩んできたといっても過言では
ないのです。京セラが手がけるセラミックスは、
ファインセラミックスと呼ばれコンピュータや

第26回 1月23日(水) 天候/晴

携帯電話など様々なハイテク商品に汎用される高度素材です。このファインセラミックスに関する技術は京セラが世界に先駆けて開発をすすめる、次々に新しい地平を開いたと自負していますが、もともと私はセラミックスの門外漢でした。学生時は石油化学など有機化学を専攻していたのですが、就職が思うようにいかず、不本意ながら京都にあった無機化学の碍子製造会社に入ったのです。ですからセラミックスに関する基礎的な知識や技術など無かった上、その会社も赤字を続けており、粗末な研究設備や装置しかありませんでした。そのため、とにかく毎日現場に出て、工夫を重ねつつ研究や実験に打ち込む他に道はなかったのです。

ところがそんな状況の中、私はわずかな期間で、新しい材料を作る事に成功してしまったのです。それはアメリカのGE（ゼネラル・エレクトリック）の研究所がその1年前に世界で初めて合成に成功したという新素材で、しかも私が合成に成功したものはまったく同じ組成でありながら、その合成方法はGEと全然異なるものでした。つまり、私の方法論は世界に類の無いまったくオリジナルだったのです。

精密な設備を使って理論的な実験を重ねたわけではありません。京都のちっぽけな碍子メーカーの名も無い一研究員が、徒手空拳のまま行ったことが、世界のGEに匹敵する成果を上げた。まぐれ当たりとしか言いようの無い幸運な成り行きでしたが、しかし不思議なことに、そうした幸運はその後も続き、その会社を退職して京セラを設立してからも、私と私の会社をどんどん成長させていったのです。

という内容でした。皆さんも機会がありましたら是非一読してみたいはいかがでしょうか。

